

第1回網走湖汽水環境保全方策検討委員会

議事要旨

日 時：令和2年12月14日

場 所：オホーツク・文化交流センター

(エコーセンター2000) 大会議室

1. 委員会の概要

- (1) 事務局より資料1-1及び資料2-2を用いて委員会の概要を説明した。
- (2) 規約(案)の第2条にある「汽水環境」とは、シジミやサケ・マス等の水域に存在する水生生物も含めた表現であることを確認し、規約(案)について委員の了承を得た。
- (3) 検討スケジュール(案)について、委員の了承を得た。

2. 網走湖の概要と水環境

- (1) 事務局より資料3を用いて網走湖の概要と水環境の現状を説明した。
- (2) 佐々木委員より、網走川・網走湖におけるサケ・シジミの現状に関する情報提供があった。
- (3) 検討委員会において網走湖の現状に関する情報の共有が図られた。

3. 汽水環境保全方策の考え方

- (1) 事務局より資料4を用いて汽水環境保全方策の考え方を説明した。
- (2) 検討に使用する解析モデルについては、今後の対策効果に関する詳細な検討に必要な再現性の高い高精度モデルの導入を検討することを確認した。
- (3) 汽水環境の保全を図るための方策として、淡水層の塩分上昇方策を試行的対策として検討するとともに、長期的な対策を今後検討していくことについて委員から合意を得た。
- (4) 主な意見は次の通り。
 - ア. 引き続き塩淡水境界層の上昇を抑制する必要がある。
 - イ. 塩水層(貧酸素、高塩分水)全体の水質改善は現実的に難しい。
 - ウ. 塩水層と淡水層と混合させる対策はリスクが大きい。
 - エ. 塩水層と淡水層は密度差が大きく混合させるには大きなエネルギーが必要となる。